

# プロジェクトコーナー

前号で報告のように、今年度は、簡易水道建設・衛生栄養研修、保健ボランティア育成、モスン教育事業の3事業を、各助成機関の支援で実施しています。  
また、この5月には、校舎建設などに使って下さいという趣旨のご寄附をいただきました。松尾基金と名づけて、ラムアフス小学校校舎増築事業を実施することにしました。

## 継続

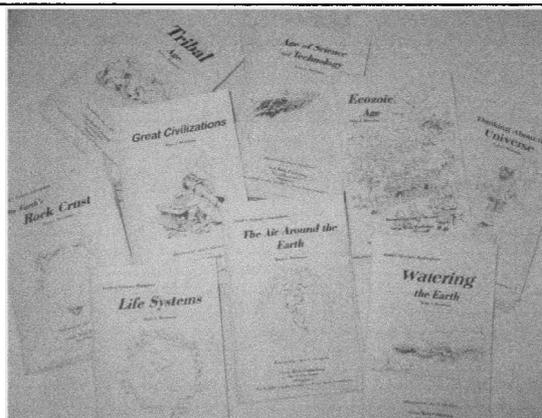
### 先住民族中退児童のフリースクール（モスン教育）と自主財源事業（NIA 助成）

政府主導の画一的教育では、民族の言葉しか知らない少数民族の子どもたちは、小学校に入ったその日から、ハンディを背負います。

言葉だけでなく、多数派のキリスト教的価値観や文化を反映した教材で学ぶ中で、少数民族であることを恥ずかしく思う子どもも出てきます。

中退・未就学が増えている特に貧しい2地区で始められたフリースクールの試み「モスン教育事業」は、今年3年目を迎えました。

チボリ語併記で、民族色豊かな挿絵付きブックレット 60種の発行は過去2年の事業成果の一つです。



科学系ブックレット「Rock Crust 地殻」他



事業予算にない研修センターは、廃材を集めて住民の手で少しずつ建設を進められています。女子棟では若い母親対象の衛生栄養教室なども予定されています。

(建設中のセンターで)

1960年代初め、宣教師とともに海外からの支援が入って40年余り、レイクセブ町のチボリ民族の教育普及率は他の先住民族地域と比べればダントツに高いといわれています。その中で広がる格差と、より貧しくなっていく人々の問題解決には、住民が主体的に関わるしかありません。

6月訪問時には、長老、母親たち、ハイスクール学生などからその意気込みと具体的活動を聞きました。

住民活動の拠点となる研修センター(男女2棟)も建設中で、ここでは伝統技能の伝承や収入向上のための食品加工技術などを学びます。

3年目になる本年は、HANDS が(財)新潟県国際交流協会(NIA)の助成を受けて教師給与や山羊・家禽飼育を支援します。

### 保健ボランティアの育成と母子保健プロジェクト（FIDR 助成）現況

現地協力組織 PIHS 代表で看護師のナプサさんの出産・体調不良で、予定より事業の進行が遅れています。スタッフ及びヘルスワーカーの手ですでに住民対象オリエンテーションは終了。PIHS アドバイザーで日本在住のアガ・長瀬さんも7月上旬ミンダナオに入り本事業をサポート。現地モニター担当の九島さんは、8月下旬に事業地域に2週間滞在予定です。次号で詳細を報告します。